武庫川左岸六樋を歩く

第 70 回武庫川エコハイク

20130209.エコグループ・武庫川

大阪湾フェニックスセンター助成

武庫川 全長 65km、流域面積 500km^2、篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門（むこみなと）」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。

2 級河川だが流域に阪神地帯を抱え流域人口では全国第１０位である。「阪神間の母なる川」である。上流から三田盆地までは緩やかに流れ、中流には武庫川渓谷で V 字谷になる一風変わった川である。この渓谷は六甲山の隆起とともに武庫川に洗刻された先行河川である。ここに県営ダムを作る計画があったが豊かな自然環境を破壊することで反対する市民運動が持ち上がり、県は流域住民を含めて武庫川流域委員会を設置して 2 年半にわたり協議した結果、平成 22（2010）年 10 月、ダムは検討に時間がかかることから、20 年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

阪急小林駅 「おばやし」と読む。阪急西宝線(西宮北口と宝塚の間、現在は今津と宝塚の間で今津線)の駅。大正 10(1921)年同線開業と同時に開設。このあたりはかって平林寺の門前町として「小林千軒」として賑わった。最近は映画「阪急電車」で有名になる。

武庫の行宮 武庫川新橋の手前は 6 世紀から 7 世紀にかけて「武庫の行宮（あんぐう）」があったといわれ、蔵人、高司（鷹司）、御所前の地名が残っている。欽明天皇、孝徳天皇が有馬温泉入湯時の仮宮とされたと思われる。

武庫川新橋 宝塚市南部にかかる市内で一番新しい橋。平成 6(1994)年完成。宝塚新大橋と甲武橋の間の橋。甲武橋との間は約 2.5kmある。

武庫川の井堰 武庫平野には上流から川面井(左岸)、伊子志井(右岸)、昆陽井(左岸)、百間樋(右岸)、六樋がある。

川面井 川面井は武庫川左岸宝来橋上流にあったが、現在は阪急今津線橋梁上流宝塚観光ダムに取水口があり、宝塚市武庫川左岸地区の用水である。

伊子志井 伊子志樋は武庫川右岸逆瀬川合流点の上流にある伊子志井堰から取水され宝塚市右岸地区の農業用水と上水道用水である。

昆陽井(こやゆ) 昆陽井は宝塚市宝塚新大橋下流の昆陽井堰から取水し伊丹市の農業用水と上水源となっている。

六樋 中世末から近世初期にかけて武庫川東岸の西昆陽村地内から上流から順に野間井（富松井）、生島井、武庫井、さらに下流の富松村地内に水堂井、常吉村地内に守部井さらに西武庫村に大島井の 6 個の取水井堰が設けられ、尼崎地域西部の農業用水をまかなっていた。それぞれに井組が管理をしていた。当時の武庫川は堤防も十分でなく各井間の水争いも多かったので、大正 13(1923)年に着工された武庫川改修第 2 期でこれら 6 樋の合併工事が昭和 3(1928)年に竣工した。この結果西昆陽村地内に取水地点が設けられ、6 樋は廃止された。六樋は武庫川の伏流水を西昆陽で取水し、暗渠集水設備を設けている。

野間井（富松井とまつゆ） 野間（現伊丹市）、友行、時友、武庫庄、東富松、西富松、塚口村の 7 ヶ村の用水路として利用されていた。永禄年間（1558～70）ころ野間井が西昆陽村地内に取水口が設け以降各村が加わった。

生島井(いくしまゆ) 常松村が西昆陽村地内の野間井のすぐ下手に取水口を持っていたが、その後寛永年間ころ生島 4 ヶ村(上之島、栗山、大西、三反田)が加わった。

武庫井 17 世紀半ばに常吉村が西昆陽村の生島井の下流に取水口を持っていたが、その後西武庫、東武庫、生島の 3 ヶ村が加わった。

水堂井（みずどうゆ） 水堂、七松（ななつまつ）、西難波（なにわ）の用水。開設時期は不明。

守部井 守部村の用水。天正年間(16 世紀後半)に開設されていたと思われる。

大島井 旧大島荘 4 ヶ村（今北、東大島、西大島、西新田）が天正 10(1582)年ごろに西武庫村地内に開設した武庫川左岸最下流の取水口である。後に旧浜田村 2 ヶ村（浜田、東新田）が加わった。

武庫川六樋合併 70 周年記念碑 取水口出口周辺の堤防上に「武庫川六樋合併 70 周年記念碑」があり、六樋合併の経緯が記されている。

あまがさきホタルの里 昭和 30 年代までほたるが飛び交ってい武庫川堤防沿いの用水にほたるを呼び戻そうと地域の人たちが用水とその周辺の整備をはじめほたるが戻ってきた 1985 年に「あまがさきホタルの里」が開設された。毎年 5 月末に市民ほたる祭が行われる。

第 1 分水地点 取水口からすぐ下流で野間井、生島井、幹線水路が分水される。

第 2 分水地点 さらに約 300m 下流に武庫井の分水地点がある。

髭の渡しと髭茶屋 江戸時代の渡し場、江戸時代は戦略上大きな川には橋を架けず、渡しによった。武庫川も下流は生瀬の浄橋橋までは橋がなかった。

第 3 分水地点 さらに約 500m 下流で水堂井と幹線水路が分水される。

新池（しんけ）常吉井の水源 甲武橋東側高架下に旧生島井（常吉井）の水源がある。

常吉源太郎橋 親水緑道として整備された源太郎公園付近で武庫井が 4 つに分水される。東側を生島井が流れる。常吉は大字名、源太郎は小字名。

第 4 分水地点 西武庫公園北側の武庫川堤防下に守部井の分水地点がある。

西武庫公園の湧水池 西武庫公園北西の隅にある湧水池。守部井に合流する。

西武庫公園・西武庫団地 尼崎市西北部の武庫川左岸の広大な土地は戦時中は防空空地として整備されグライダーの演習地として利用されていた。武庫土地区画整理事業が行われ昭和 38(1963)年県立公園と公団住宅が建設された。平成 24 年市立公園となった。

西武庫須佐之男神社 武庫川左岸には治水の神様といわれる素盞嗚（須左之男）神社が 8 社ある。それだけ武庫川は暴れ川だった。石造十三重塔は元応 2(1320)年の銘があり県重要文化財。

武庫之荘住宅地 昭和 12(1937)年阪急電車により高級住宅地が開発された。住宅地内には排水路に一の橋から十七の橋までの橋が並んでいる。

阪急武庫之荘駅 阪急神戸線(開通 1920 年、全面開通 1936 年)に昭和 12(1937)年開設。阪急による 6 万坪に及ぶ駅西北部に住宅開発に対応した。